

安曇野市公民館報

安曇野市
中央公民館

No.59 2021.3.10
TEL 71-2466

明科再発見ウォーキング 山城巡り

山城とは、松本城に見られるような石垣も天守も無く、山の地形を利用して土塁と空堀というただの土で造られた城のことをいう。地上の構築物は残っておらず、大地を整地した跡が風化しながら残っているのみである。

明科地域には武士や土豪の屋敷跡が多く、城や見張り場所、館に關係すると思われる地名が多くある。城峯や木戸、物見岩などである。光氏、塔原氏、仁科氏、大葦(大足)氏、日岐(丸山)氏、会田氏、青柳氏などが勢力を張っていた様子がうかがえる。



12月6日、明科公民館と明科いまちつくりukai!!が開催した明科再発見ウォーキングは、市内最大規模の戦国山城遺構である塔原城趾(城跡)を約30人が歩いた。吐中地区の大手口から登り始め、標高差は1

50ほどだが、登山道とは言えない道を1時間ほどかけ歩いた。事前に主催者で整備したものの、滑りやすい落ち葉の積もった足場の悪い斜面を、戦国武士になったつもりでひたすら主郭を目指した。



北風が頬に冷たく感じるウォーキングであったが、心が熱くなる出来事もあった。それは88歳の女性が完歩された事だ。「普段から歩く事を心がけている。過去に公民館講座で塔原城趾の事を学んだので、その時の学びを自分の足で確かめる事ができ、感慨深かった」と話される姿に、いくつになっても学び、体を鍛える事の大切さを教えられた。

今回、定員を超える申し込みがあった山城巡りは、豊かな安曇野の自然の中で免疫力を高める活動のひとつとして続けていきたい。

穂高公民館 オータムジャズコンサート

穂高公民館では、10月10日に「オータム・ジャズコンサート」を開催した。当初、7月に「夕涼みジャズコンサート」を予定していたが、新型コロナウイルス感染が拡大しつつあったので、秋に延期したものである。コロナ対策のため、先着50人限定の申込制とした。

コンサートは、2部構成で行われ、第1部は「モダン・デュークス」の演奏から始まった。



モダンデュークスの演奏

モダン・デュークスは、50数年前、信州大学の学生が結成したモダン・ジャズのサークルで、13年前に老後の生きがいにと再結成したバンドである。メンバーは、シルバークエストの皆さんである。ジャズのスタンダード曲を中心とした演奏であったが、魔法の宅急便より「海の見える街」などのアニメ曲も織り交ぜながらの軽快な演奏に、体でリズムをとりながら聴いている人もいた。

第2部はボーカル特集で、アマチュアの女性ジャズボーカルユニット「Y's Gem」の4人と1人の男性ボーカリストが歌った。

Y's Gemのボーカル



「Y's Gem」は、プロのジャズボーカリストであるYOKOさんのボーカル教室の生徒が結成したユニットだ。男性もYOKOさんの生徒である。モダン・デュークスの伴奏に乗って代わる代わる艶やかに歌う4人の女性ボーカリストの歌声や、男性の洪い歌声が会場の観客を魅了した。

最後にはサプライズでYOKOさんが特別出演し、2曲歌った。さすがプロ、その歌声に会場は乗り乗りと盛り上がりつつコンサートを終了した。

参加者からは「コロナ禍の自粛ムードを吹き飛ばす開放感があるようでおり、心地よくうれしかった」「楽しい時間をありがとう！緊張が取れた。また頑張ろう」「生でジャズが聴けて幸せです。歌手の方の哀愁のある歌声が素晴らしかった。プロのYOKOさんの歌が聴けて感激」などの感想があった。



ジャズボーカリストのYOKOさん

グループ紹介

箏の魅力を伝え続ける 安曇野おここの会(豊科)

安藤登志子さんが代表を務める「安曇野おここの会」は、数年前までは3団体で活動していたが、現在は安藤箏曲教室だけになった。安藤さんは「箏を皆に楽しんでもらう」を信条にしており、たとえ会が1団体になってしまっても活動を続けていきたいと、機会あるごとに精力的に箏曲の魅力を伝え続けている。

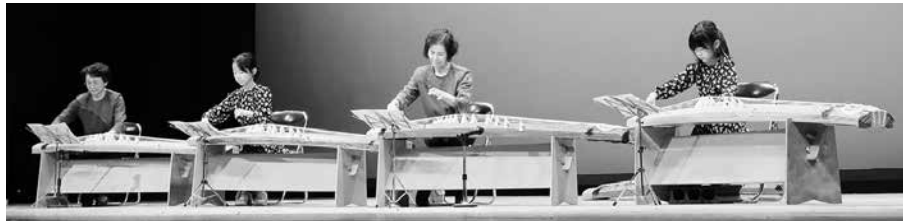
安藤箏曲教室には、10数人のお弟子さんがいて、火・水・金曜日の午後に稽古をしている。小学生のお弟子さんもいて、大人と共に発表の場に立っていて将来が楽しみである。

安曇野おここの会は、45年前から現在まで名前を守り続け、多岐にわたり活動している。福祉施設の訪問もしているが、特に地域が発展する事や地域の方々とのつながりを作ることに熱心である。吉野地区の文化祭、あづみの市民活動フェスタなどにも積極的に参加している。豊科地域文化祭の芸能発表会には30年以上参加し続け、地域の芸能発展に多大な貢献をしている。活動で思い出深いのは、友好都市である武蔵野市との交流で、武蔵野市の箏のグループと箏や尺八で合奏し演奏交流を行った

ことだそうだ。

会では、小・中学校の体験教室にも出向き、指導をしている。体験教室やフェスタなどには、さまざまな理由で今は使われなくなった箏を生かしてほしいと託されたものや、安藤さんがもとも所有していたものを、合わせて10数面の箏を持参して多くの人に演奏を体験してもらっているそうだ。箏は演奏者が調律師となつて調弦するため確かな耳が必要である。安藤さんは幼少の頃から箏を習っており、長年の経験を生かした指導をしている。

会は、45年前から豊科芸術文化協会に加盟している。安藤さんは過去に会長を務めたこともあり、協会の発展に尽力された。協会の高齢化を心配しつつ、特に芸能部門の衰退が著しいことを懸念され、横のつながりをもつと重視していきたいと語っていた。



令和元年度の豊科地域文化祭芸能発表会

私は一生懸命

三原好清さん (三郷)



小学校での教員生活を終え25年余り、この間、三郷公民館講座で「陶芸教室」「まなび隊」の講師として活動を続けています。また、安曇野市総合芸術展実行委員としても長年活動している。活動を続けるために、健康づくりの一環として早起き、畑仕事や趣味の盆栽、陶芸、食事の支度などにいそしんでいる。

先輩に誘われて始めた陶芸だが、三郷公民館に陶芸用の窯があったことから陶芸教室の指導をすることになった。陶芸は無から有を作り上げることがなかなか難しく、私自身、満足のいくものができず追い求めるばかりである。陶芸教室体験者を中心となつて結成された陶芸クラブでも指導をして



いるが、クラブのみならず、作陶のたびに絵付けや釉薬を変えながら、技術も考え方も進歩しておりうれしい限りである。教師生活で培った「人の良い

ところを見つけ、て伸ばすこと」を心掛け、クラブの皆さんと楽しく作品作りを行い、三郷文化産業展などへ出品を続けています。



三原さんが焼いた作品

子ども向けの公民館講座「まなび隊」の指導は、教職や公民館活動の先輩である故木船清先生の誘いもあり行うことになった。活動内容は、たこ、こまなどの遊び道具の製作や自然探索などを中心に、子どもたちが自分で考え、作り、遊ぶなどの体験活動を行うというものである。毎回、子どもたちが理解しやすいように資料の準備を行うが、地域や自然など、さまざまなことについて調べなければならず、私自身も良い勉強の機会になっていく。今は土地の歴史が移り変わり、暮らしが便利になつてきた一方で、壊れていくものや失われていく自然があることを子どもたちに知ってもらい、自分たちはどのような気持ちを持って生きていくべきかを考えてほしい。そして、自然とともに育つ環境を大切にしながら成長してもらいたいと願っている。

この先、私が関わっている公民館活動の規模は縮小されていくかもしれないが、興味を持ってくれる人がいれば、ぜひ参加し、維持していったらいい。

地区公民館だより

大足地区公民館(明科)

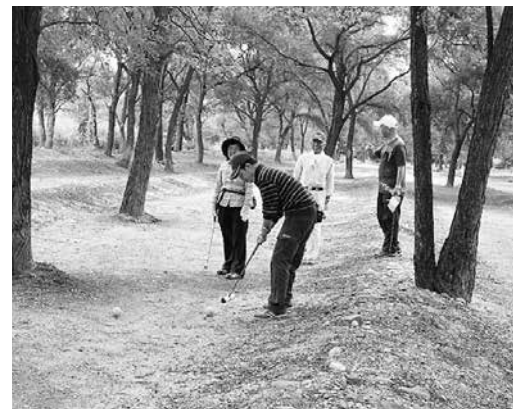
大足地区は会田川沿いに位置し、全戸数112戸、人口264人である。公民館行事は、公民館長、主事、総務部、体育部、婦人部の計22人の役員が中心となり計画し、開催している。

昨年度はマレットゴルフ、ゲートボール大会、敬老のお祝い、人權学習、社協と共催の健康教室など定例の行事を行った。明科地域市民運動会は雨で中止になったが、人口が少ないため、他の地区と同じように選手集めには苦労をしており、区民の積極的な参加を希望している。

本年度はコロナ禍により、ほとんどの行事を中止とせざるを得なかった。1年おきに行われている公民館研修旅行も中止となった。



毎回大勢の方に参加していただいております。近くにも会う事が少ない方たちとの良い交流の機会でもあり大変残念だった。もう一つ



残念なことがある。それは御宝田のマレットゴルフ場が大雨により使用できなくなったことだ。公民館主催で大会を開催しているが、若い人から年配の方々までが大勢参加して楽しんでいただけに、ぜひともマレットゴルフ場が再開することを願っている。

行事が少なかった分、施設に目を向ける事ができたことは良かった。前々からの懸案であった大足コミュニティ集会所の誘導灯のチェックや業者による消防設備の点検、非常警報装置の取り換えを行い、消防署の最終検査も終える事ができた。昨年度、地区において火災が発生し、改めて防災や災害について考えさせられた。

まだまだ行事が制限される中、できる事を見つめ、安全に楽しく皆さんが交流できる場を作っていたらと思う。

(大足地区公民館館長 瀧澤進)

古きを尋ねて

③松尾寺本堂 (穂高・国指定重要文化財)



松尾寺本堂は、市内にある3つの国指定重要文化財の1つで、信州における室町時代の貴重な建築物として、昭和34(1959)年に指定を受けた。

松尾寺は、山麓線沿いのうっそうとした林の中に鐘のなる丘集会所と隣接してある。

本堂は薬師堂で、室町時代に北安曇から南安曇の一部を治めていた仁科氏の支族、古厩氏によって大永8(1528)年に建立されたと伝えられる。桁行三間、梁間三間の寄棟造りのお堂として建てられているが、軒の出を非常に深くし、軒支柱を建立当初から立てて五間堂の形式とも思われる構法をもって構成されており全国的に例が少ない。

また屋根の角の化粧隅木正面の左右2本は下から見上げた時、丸桁(※)を境に内部と外方とにおいて「く」の字型をなしている。

これは平面の外陣部隅柱間を始末するためになしたもので、全国に例のないものである。屋根の地垂木は曲線の反りが強く美しい。巻斗が正方形であり不思議に思われるが、室町時代のこの地方における巻斗の地方色によったものと思われる。

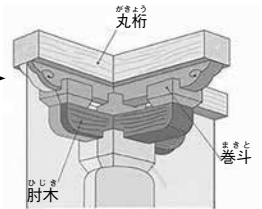
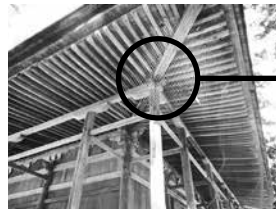
屋根上に見える鬼板の彫刻など多くの面で同時期の優れた特徴を有し、信州における室町時代建築を知るもつとも貴重な物の一つである。

※丸桁 垂木(屋根を支える棟から軒先に渡す長い木材)を支える桁のうち、最も軒先近くにあるもの

(参考文献・穂高町誌他)



鬼板の彫刻



公民館報第58号の堀金の記事「俳句会会長」とあるのは「俳句会会長」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。



みさと
小学3・6年対象
書き初め教室

1月5日、三郷公民館では3年生以上の小学生を対象に「書き初め教室」を開催した。先生は書道家の片寄蒼穹(伸裕)さん。

縦に長い書き初め用紙に文字をバランス良く書くことは難しいが、子どもたちは書くときの注意点など、先生の話をよく聞き、筆を進めた。練習の書を先生と共に手本と見比べ、良いところと注意するところを自分で知る。先生から書き方の指導を受け、とめ、はね、はらいに気をつけながら何枚も練習した。

「書くことにうまくなつてうれしかった」「うまく書くコツがわかってよかった」と、清書を手に皆満足気な表情を見せていた。清書3枚のうち、冬休みの宿題と家に飾る物を持ち帰り、もう1枚は三郷公民館のロビーに展示した。



ほたか
プロが教える
家で作れるそば打ち教室

穂高公民館は1月20日・27日に「プロが教える家で作れるそば打ち教室」を開催し、6人が受講した。講師は、穂高有明のそば処・志水庵店主清水明さんで、そばのプロ認定国家資格「麵料理専門調理師」を持つ。こねこねハウス他で勤務後、鯉節専門店でだしを学び、独立した。

そば打ちは、水まわしとこねの作業から始まる。そば粉8割・小麦粉2割の125グラムを鉢に入れてかき混ぜた後、粉の重量の50%の水を徐々に加えながら、乾燥しないように素早くこねて、円盤形にする。この過程が味を左右するポイントで、水の量は粉の質・その日の湿度・季節などによって変えるという。



次に円盤形にした生地をのし板に置き、打ち粉を振りながら麺棒で伸ばし、8枚重ねに畳み、それを包丁で丁寧に切るとそばの完成である。受講者は大変熱心に取り組み、講師への質問が続出した。「ぜひ家族に食べさせたい」とも語った。

ほりがね
ICT講座

堀金公民館は1月15日と29日に「ICT(情報通信技術)講座」を同館講堂で開催した。NPO法人グループHIYO KOから吉江千恵子さん、白澤美由紀さんの2人を講師に迎え、各回10人が参加した。



15日はSNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)の説明と閲覧、29日はZoomアプリを使った会議の説明とタブレット端末を使った演習を行った。慣れないの姿もあったが積極的に取り組んでいた。初めてビデオ会議を体験した参加者は「Zoomというソフトの良さや使いやすさがわかった。今後、ぜひ使ってみたい」と話していた。

インターネットが充実して、オンラインツールも普及し、コロナ禍でテレワーク(遠隔地業務)や在宅勤務が増加する中、時勢に即した内容の講座であった。山田公民館長は「時代の波に乗り、自分磨きの旅に出て下さい」とエールを送っていた。

あかしな
蝶ヶ岳ヒュッテの
魅力と課題

明科公民館と明科いいまちつくろうかい!!は、1月26日に蝶ヶ岳ヒュッテ代表取締役の中村梢さんを講師に迎え「蝶ヶ岳からの山小屋だより」という演題で講座を開催した。

四季折々の風景や植物の魅力、安曇野産のお米を使ったこだわりのごはんや味噌汁の紹介などがあった。一方、母が急逝し小屋を引き継いだがいきなり見舞われたコロナ禍、地震や大雨で苦境にある山小屋運営や登山道整備の在り方も語った。

難局に立ち向かうべく、登山者やクラウドファンディングを使つた広い支援のお願いの他、来年、100年目を迎える山小屋の周辺情報の提供を求めた。

当日は予想を超える82人が集まり、山に対する関心の高さがうかがえた。



櫻

コロナの季節は長い。今もコロナ禍に苦しむ国もあれば、克服したかのようない国もあるようだ。その違いはどのような政策の違いらしい。政治が生活に与える影響の大きさを今更ながら知った。

(Y・I)